

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)真澄寺浜松別院 改築工事	階数	地上3F
建設地	静岡県浜松市東区大島町字上大瀬	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,880 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2024年3月15日
敷地面積	4,238 m <sup>2</sup>	作成者	藤本 康恵
建築面積	2,023 m <sup>2</sup>	確認日	2024年3月15日
延床面積	4,232 m <sup>2</sup>	確認者	藤本 康恵



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

**LR のスコア = 2.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 地上3F建ての寺院建築である。 室内は利用者にとって快適な空間となるよう遮音性や空気室環境に配慮した設計とした。 敷地には緑化を行い、歩行者の暑熱環境緩和や周辺環境への熱負荷低減に配慮を行った。		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 開口はT-2以上を採用し、室内の遮音性を高めた。 また、F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用、全館禁煙とするなど室内の空気室環境に配慮した計画とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 耐用年数の長い外装材・内装材、配管を採用し、維持管理・更新性に配慮して設計した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内にはできる限り植栽を行い、豊かな緑化環境の形成や暑熱環境の緩和を図った。
<b>LR1 エネルギー</b> LED等の高効率設備を採用し、建物の省エネルギー性の向上を図った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> リサイクル促進対策として、建物解体時の分別が容易となるような仕上りや再利用できるユニットなどを採用した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 風が通り抜けられるよう建物周囲は余裕を持たせた配置とした。また、ヒートアイランド防止につながるよう、緑化面積を十分に確保した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

## 1. 建物概要

建物名称	(仮称)真澄寺浜松別院 改築工事	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

## 2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.7 /5		がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.8 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上                  ふつう 3点以上                  がんばろう 3点未満	

## 3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		内訳対応項目	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	2.7
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④外壁:タイル張り ④床:タイル・タイルカーペット・ビニル床シート、壁:タイル・ビニルクロス、天井:ボード・ビニルクロス ⑤主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	Q-1 2	2.1 2.2	① 外皮性能
	Q-1 3	3.1 3.13	② 昼光利用設備
	Q-2 2	3.2 3.2.1	③ 昼光制御
	Q-2 2	2.2 2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1	2.2 ④	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3	2.2 ④	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1 1	2.2 ④	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔
	2	2.2 ④	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬躯体+LGS+仕上、GL工法、OAフロア採用	LR-2 1	2.2 ④	④ 主要設備機器の更新必要間隔
	2	2.2 ④	④ 主要設備機器の更新必要間隔
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 1	2.2 ④	④ 主要設備機器の更新必要間隔
	2	2.2 ④	④ 主要設備機器の更新必要間隔
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	2.8
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2	2.1 2.1.1	⑯ 耐震性
	2.4	2.1.2 ⑯	⑯ 免震・制振性能
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳0.1≦[壁長さ比率]<0.3	2.4.1	2.4 ⑰	⑰ 空調・換気設備
	2.4.2	2.4 ⑱	⑱ 給排水・衛生設備
	2.4.3	2.4 ⑲	⑲ 電気設備
	2.4.4	2.4 ⑲	⑲ 機械・配管支持方法
	2.4.5	2.4 ⑲	⑲ 通信・情報設備
	2.4.5	2.4 ⑲	⑲ 通信・情報設備
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点	2.8
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳0.1≦[壁長さ比率]<0.3	Q-2 1	1.1 1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画
	3	3.1 3.1.1	⑲ 階高のゆとり
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3	3.1 2.0	⑲ 空間の形状・自由さ
	3	3.1 2.1	⑲ 空間の形状・自由さ
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	2.5
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1	2.2 ⑤	⑤ 生物環境の保全と創出
	2	2.2 ⑤	⑤ 生物環境の保全と創出
■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-2 2	2.5 ⑥	⑥ 敷地内温熱環境の向上
	LR-3 2	2.2 ⑥	⑥ 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-2 2	2.5 ⑫	⑫ 持続可能な森林から産出された木材
	LR-3 2	2.2 ⑫	⑫ 持続可能な森林から産出された木材